

保護者の皆様へ

大阪産業大学附属高等学校

校長 平岡 伸一郎

2020年度 アンケート結果のご報告

秋冷の候、保護者の皆様にはますますご清祥のことと存じます。平素は本校教育活動に深いご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。さて、学校教育法の改正に伴い学校評価が義務づけられるようになりました。本校では生徒に「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」「学校生活についてのアンケート」とともに、授業科目ごとの「授業アンケート」を実施しています。2020年度のアンケート結果を踏まえて、その分析と今後の課題を明らかにします。なお、アンケートは、3学期に実施しており、高校3年生は大学受験で登校していないので、1年生・2年生を対象にしています。

1. はじめに

2020年度は4月、5月の2ヶ月間、新型コロナウイルス感染拡大の影響で学校の休校を余儀なくされました。6月より学校再開となりましたが、新型コロナウイルス感染が蔓延する以前の学校生活に戻すことはかなわず、様々な場面において感染対策を講じた教育活動を行うことが求められました。

授業については大きく従来からの様式を変化させる必要はなかったのですが、学校行事についてはかなり打撃を受け、いくつかの行事が中止となりました。実施できた行事も級友との距離やエネルギーを発散することに制限をかけられ、本来の盛り上がりを知る生徒には物足りなさを感じたことと思われます。そうした状況は生徒たちが意識するしないに関わらず、生徒たちの精神面、行動面に影響を与えたことと思われます。アンケートでも例年とは少し異なる傾向が出ています。以下、3種類のアンケート結果を見ていきたいと思います。

2. 「授業アンケート」の結果について

「授業アンケート」の結果は別表の通りです。アンケート結果については、各教科担当の教員に担当クラスの結果をまとめて戻し、自身の授業内容についての「振り返り」の材料として、次年度の授業内容の改善に役立てるようにしています。以下、各クラスで実施したアンケートを集計し、特進、進学系列それぞれ学年ごとにまとめた結果について見ていきます。

2020年度のアンケートで特徴的なのが、特進1年で、教員の授業内容や授業に臨む姿勢に対する質問に対して、肯定的な回答の数字が他と比べて下回っていることです。Q1～Q12までの各質問には、「そう思う(満足)」「やや思う(やや満足)」「どちらでもない(普通)」「あまり思わない(やや不満)」「そう思わない(不満)」の5段階の回答がありますが、特進1年では、多くの質問に対して「そう思う」の回答が他の学年・コースより下回っています。「やや思う」までの回答を含めるとその差は縮まりますが、それでもやはり例年を下回っています。その原因を探るべく、特進1年の教科を担当していた教員にアンケート結果を知らせ、意見を求めたところ、生徒の様子は例年と変わるところがなかったという声が寄せられており、今のところ、この結果について推測する術がありません。今後実施されるアンケートでは、

この学年がどのように変化していくか注視していく必要があります。

次にそれぞれの質問項目について考察していきます。

Q2の「授業のスピードはどうか」の質問に、2019年度は「もっとゆっくり」と回答した生徒が十数パーセントいましたが、2020年度は各学年・コースとも1割を切っており、改善されたようです。

Q4の「授業は工夫されていますか」の質問には「そう思う」「やや思う」と約8割の生徒が回答しています。本校では休校中の5月中旬から5月末までオンライン授業を実施することになり、それまでICT機器の活用を敬遠していた教員も好むと好まざるとに関わらず活用せざるを得ない状況となりました。しかし、これが本校のICT教育への心理的障壁を取り除くことになりました。オンライン授業実施期間終了後、教員に実施したオンライン授業についてのアンケートでは、ICTの活用に対して67%の教員から肯定的な回答がありました。少しずつですがICT機器を積極的に活用する教員も増えています。Q4の質問への回答の数字はそうした教員のICT教育への取り組みなどが反映されたのではないかと思います。

今後ICT機器がさらに広く活用されることが予想される中、ICT機器の活用を敬遠し、いつまでも過去の経験にしがみつく教員は時代から淘汰されることになると思います。本校では来年度よりICT教育を本格的に導入するので、教員研修を通じてICT教育への理解を深めていきたいと考えています。ただ、Q3の「授業は分かりやすいですか」への肯定的な回答の数字は他の質問に比べ低いので、授業への工夫を授業のわかりやすさにつなげたいところです。

Q7「授業を受けて、この教科・科目について興味が深まったと思いますか」、Q8「授業を受けて、学力がついたと思いますか」、Q11の「この教科の勉強を日常していますか」への両質問に対する「そう思う」「やや思う」の回答の数字は、他の質問への同じ回答に比べやや下回っています。教員が興味・関心を引く授業をすることによって、生徒も知らず知らずのうちに授業にのめり込み、それが学力向上につながります。生徒たちへの学習意欲を喚起できるような興味深い授業を展開していきたいと思います。

3. 「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」の結果について

授業を受ける態度に関する①～⑩の質問については、例年各コースにおいて学年が上がるにつれ、高校生としての自覚を身につけていくからなのか、肯定的な回答の数字が上昇する傾向があります。2020年度は2年進学では、これまで通り1年前よりほとんどの項目で肯定的な回答の数字が上昇しています。1学年では特に進学において各質問項目に対する肯定的な回答の数字の高さが目立ちます。進学コースは年々落ち着いてきている様子が見られ、1年担任団からもそうした声がよくあがっています。質問項目の中では⑤、⑦、⑩の回答の「守っている」の数字が高くなっています。

4. 「学校生活についてのアンケート」の結果について

まず、教員の生徒に対する指導についての質問、「この学校は、いじめを許さないようにしっかり取り組んでいる」、「この学校の先生は、生徒指導にしっかり取り組んでいる」、「この学校の生徒指導は、適切であると思う」、「この学校は、進路についての情報をよく知らせてくれる」に対して、「よくあてはまる」「ややあてはまる」という回答がすべて8割を超えています。その中でも「この学校の先生は、生徒指導にしっかり取り組んでいる」の質問については、他の質問より「よくあてはまる」の数字が高くなってい

ます。理由として、生徒指導部が中心となって年2回行う登下校指導強化期間での取り組みや定期的実施する学年集会・コース集会での教員の講話などを通じ、未然に問題行為の防止を図る姿勢や問題行為が発生した際の担任・学年の迅速な対応を生徒が評価したのではないかと思います。

進路情報に対する高い評価は、進路指導部による大阪産業大学との高大連携プログラム、職業・分野別説明会などの取り組みを通じ、生徒に大学、学部、学科、職業について学ぶ機会を多く作っているのが理由だと思います。「私は、進路について目標を持って毎日の学校生活を送っている」という質問に対しても、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と75%の生徒が回答しているのも、教員の生徒への進路情報発信の成果の表れといえそうです。

次に生徒の学校生活についての質問、「この学校の生徒は、学校生活に積極的に参加している」、「この学校は、生徒が清掃にしっかり取り組んでいる」に対しては約9割の生徒が「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答しており、本校生徒が学校生活に対して前向きに取り組んでいる姿勢が良く表れています。「この学校の生徒は、挨拶をきちんとしている」の質問に対しても、「ややあてはまる」まで含めると回答した生徒は89%となっています。生徒が挨拶を自然にできるのは、本校の大きな長所なので、今後もこの校風は伸ばしていきたいと思います。

一方「この学校の生徒は、学校生活に積極的に参加している」の質問に対し、2年の「よくあてはまる」の数字が例年を下回っています。この学年は高校生活最大のイベントである修学旅行が延期となり（結局中止）、梧桐祭・体育祭も実施はしましたが、規模を縮小してのものだったので、前年に通常通りの梧桐祭・体育祭を経験している2年生にとっては物足りなさが残ったと思われます。それでも与えられた環境の中で、精一杯取り組んでくれたことには感謝したいと思います。